

# 戦争をさせない石川の会 2020年学習会・シリーズ「戦争」

戦争はある日突然に始まるものではありません。私たちを取り巻く日々の出来事が戦争につながっています。そのトピックスを3回シリーズで取りあげ、戦争との結びつきを読み解く学習会を計画しました。ぜひご参加ください。(参加費 500円/回)

	テーマ	講師	日時	会場
1	オリンピックと戦争	スポーツジャーナリスト 谷口源太郎	2月22日(土) 14時～16時	金沢歌劇座 3階大練習室 (金沢市下本多町六番丁27)
2	天皇の代替わりと戦争	日本キリスト改革派金沢教会 牧師 漆崎英之	4月18日(土) 14時～16時	金沢歌劇座 3階大練習室 (金沢市下本多町六番丁27)
3	ジェンダーと戦争	神戸大学大学院教授 ロニー・アレキサンダー	6月20日(土) 14時～16時	金沢勤労者プラザ 101号室 (金沢市北安江3丁目2-20)

## 講師のプロフィール



谷口源太郎さん

早稲田大学中退。講談社、文藝春秋の週刊誌記者を経てフリーランスのスポーツジャーナリスト。新聞、雑誌、テレビ・ラジオを通じて、スポーツを社会的視点から捉えた批評を手がける。1994年～95年に『東京新聞』に連載した「スポーツウオッチング」で「ミズノ・スポーツライター賞」を受賞。

(主な著作)『日の丸とオリンピック』(文藝春秋、1997年)、『スポーツ立国の虚像』(花伝社、2009年)、『オリンピックの終わりの始まり』(コモンズ、2019年)

◎本会が2017年3月に開いた「共謀罪法案シンポジウム」の報告要旨を裏面に掲載。



漆崎英之さん

神戸改革派神学校卒。1989年～日本キリスト改革派教会金沢教会牧師。日本キリスト改革派教会 大会「宣教と社会問題に関する委員会」書記。日本キリスト改革派教会中部中会「世と教会に関する委員会」委員長。日本宗教問題研究所所長。

(主な執筆)「磯竹島略図が語る真実」(「竹島=独島論争」への寄稿 内藤正中、朴炳涉著 新幹社 2007年)。2019年7月1日、「政教分離と主権在民の原則に違反する『天皇の代替わり』儀式への抗議声明」、2020年1月7日、「安倍首相・閣僚による伊勢神宮参拝への抗議声明」など25年間にわたり抗議声明を作成。



ロニー・アレキサンダーさん  
(Ronni Alexander)

神戸大学大学院国際協力研究科教授、学長補佐(ダイバーシティ担当)  
米国イェール大学卒業、国際基督教大学大学院・上智大学大学院修了(文学博士)。  
国際関係論・平和研究の広い文脈のなかで、「いのち」と「安全」をキーワードに、ジェンダー・セクシュアリティ・平和・暴力が交差する事例を批判的な視点で研究。最近はずくにグアムと沖縄におけるジェンダーと軍事化を中心においている。

(主な著作)『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』(エピック、2012年)、「軍事化・生政治に直面する女たち ～太平洋地域からの考察～」『広島平和科学』31(2009年) pp.1-35、『私たちの平和をつくる:環境・開発・人権・ジェンダー』(法律文化社、2004年、高柳彰夫と共編著)

# 共謀罪法案シンポジウム・報告

戦争をさせない石川の会が2017年3月18日、近江町交流プラザ4階集会室で開いた「共謀罪法案シンポジウム」での谷口源太郎さんの報告要旨を紹介します。



## (報告1) 共謀罪と東京オリンピック

谷口源太郎(スポーツジャーナリスト)

安倍首相は今国会で「共謀罪を成立させて国際組織犯罪防止条約を締結しなければ東京五輪は開けないと言っても過言でない」と強調した。これはIOCの規定にもない全くのデマです。安倍首相はなぜこのような主張をするのか、その狙いは何か。

2011年11月にスポーツ基本法が成立した。1964年の東京五輪のときもその3年前にスポーツ振興法が成立したが、その内容は東京五輪に向けて国を挙げての選手強化だった。ところがスポーツ基本法は国家プロジェクトとして「スポーツ立国」をめざすこと、このために国際的なイベントを積極的に誘致することを謳っている。五輪はその最たるものでこれがスポーツ基本法の本質である。

五輪憲章ではオリンピックの目的は、個人とチームの間で行われるものであって、国家間で行われるものではない、とナショナリズムを排除している。しかし現在、この五輪憲章は骨抜きになっており、国威の発揚による各国のメダル競争になっている。

2020年東京五輪組織委員会の森喜朗会長と安倍首相のコンビは、オールジャパン体制(国策への反対を排除して、国民総動員体制)への足掛かりとして東京五輪をめざしているのは明らかだ。国益のため東京五輪開催に文句を言わせない社会づくりとして共謀罪を成立させようとしている。「何のため、誰のためのオリンピック開催か」を問い直すべきだ。

メディアは五輪が持つ問題点を伝えていない。先日、NHK解説員が「リオ五輪の成果」として①国威の発揚、②国際的な存在感、③経済的効果、④組織改革、⑤スポーツ文化の継承を上げていた。「国威の発揚、を一番に上げている。五輪憲章には「人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てること」が謳われているが、昨今では国家間のメダル競争、勝利至上主義、さらには巨大資本のコントロールのもとに五輪大会が開かれている。共謀罪に反対する人たちの中にも五輪はよいものという意識が広がっているが、東京五輪と共謀罪がどのような関わりがあるのか理解していただきたい。

(戦争をさせない石川の会 HP より転載)